

医療・介護をはじめとする 社会保障制度改革の推進に向けて (参考資料)

平成29年 4月12日

伊藤 元重

榊原 定征

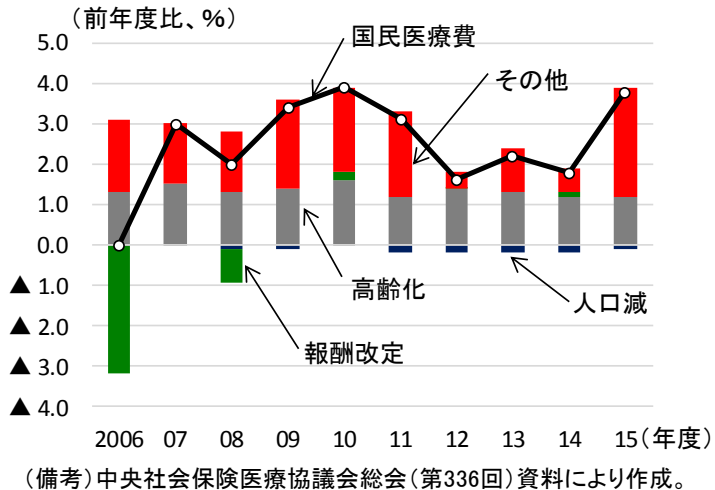
高橋 進

新浪 剛史

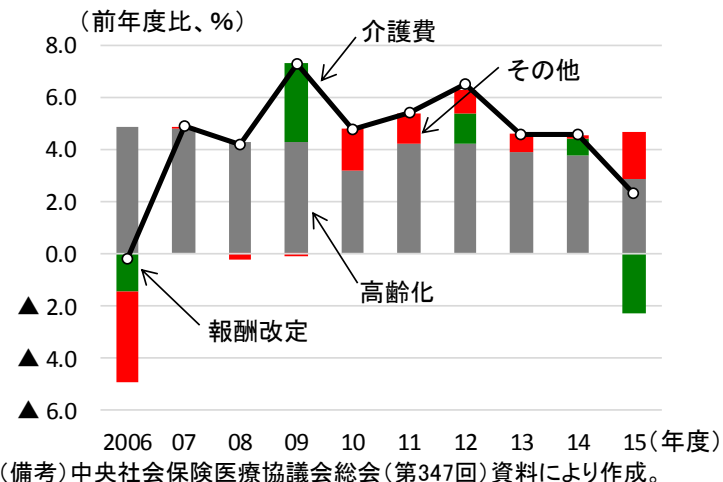
最近の医療費・介護費の動向

- 2013～2015年度の医療費は年平均2.6%増、介護は同4.0%増といずれも高齢化による伸びを上回って増加しており、44項目の改革実行に着実に取り組む必要。
- 高齢者一人当たりの入院医療費と介護費は地域的に相関。医療と介護の一体的改革が不可欠。

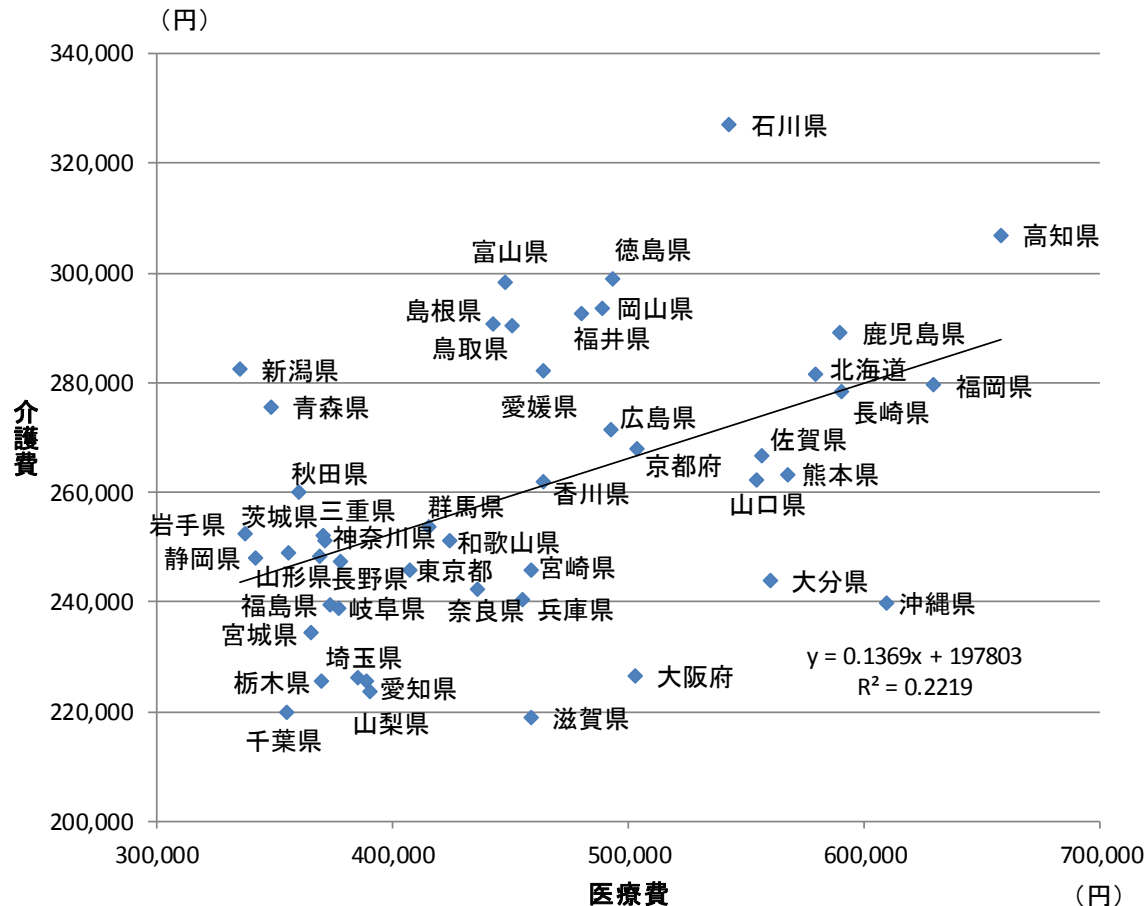
図表1 国民医療費の伸びの要因分解



図表2 介護費の伸びの要因分解



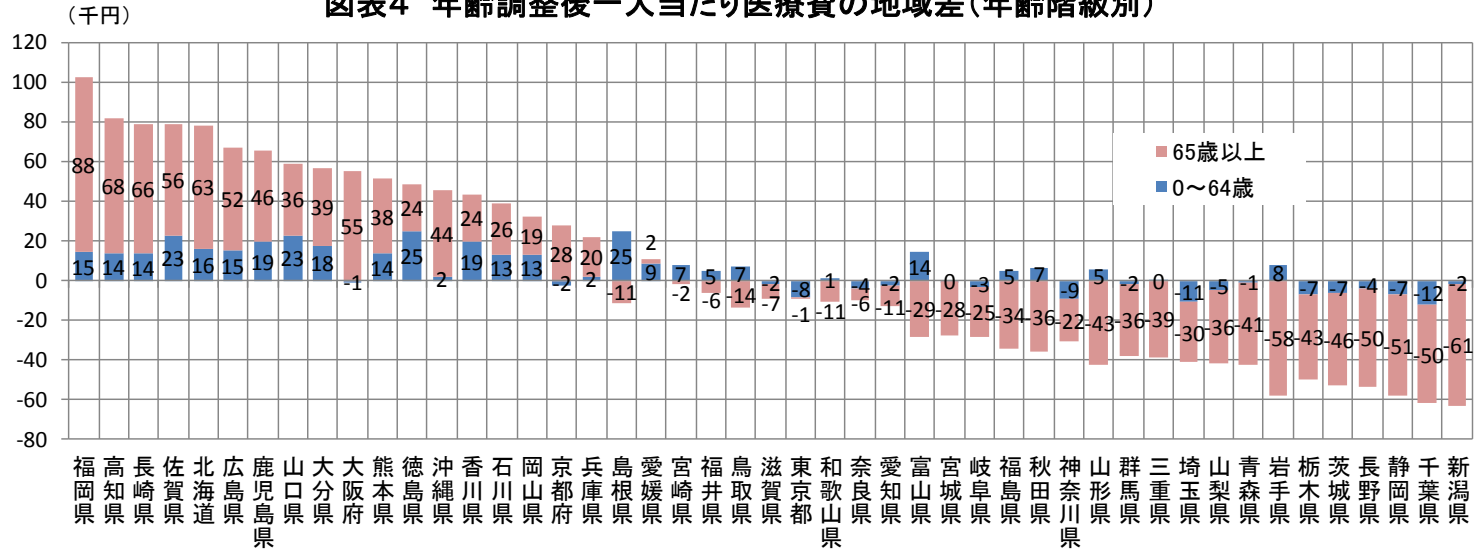
図表3 一人当たり入院医療費と介護費(施設・居住系サービス)(75歳以上)



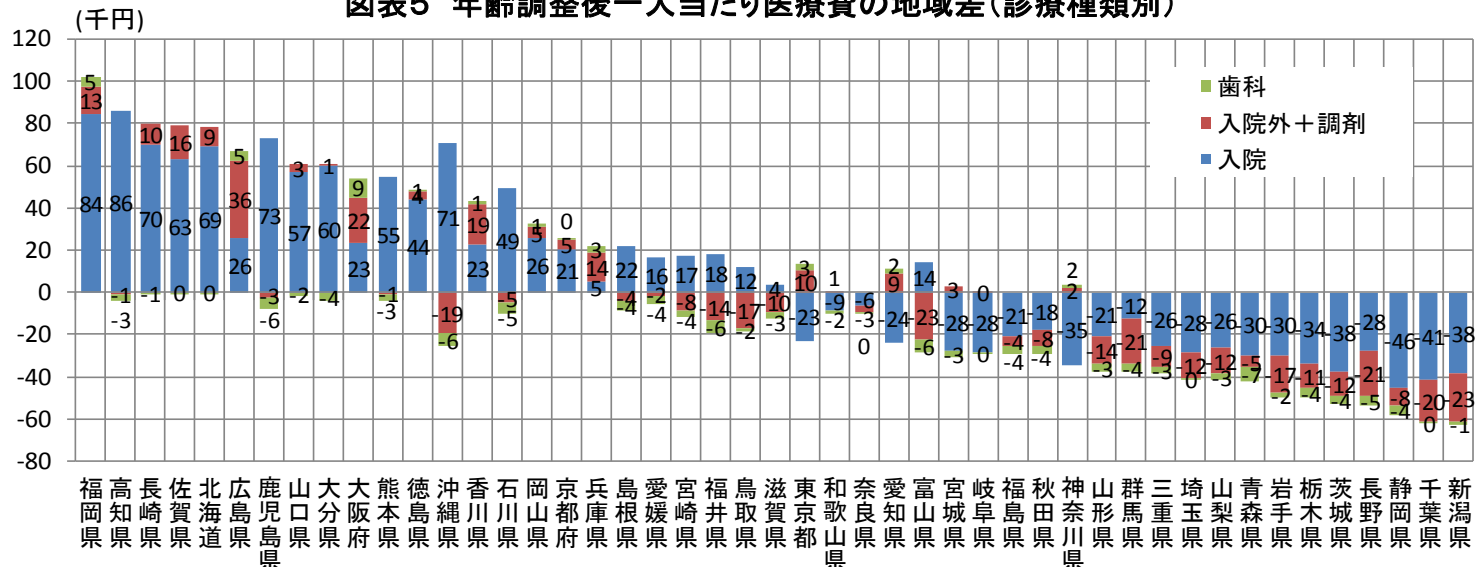
最近の医療費の動向①

- 一人当たり医療費には大きな地域差（高齢者の医療費、入院に係る医療費）。健康増進・予防を推進するとともに、優良事例を横展開すべき。

図表4 年齢調整後一人当たり医療費の地域差(年齢階級別)



図表5 年齢調整後一人当たり医療費の地域差(診療種類別)



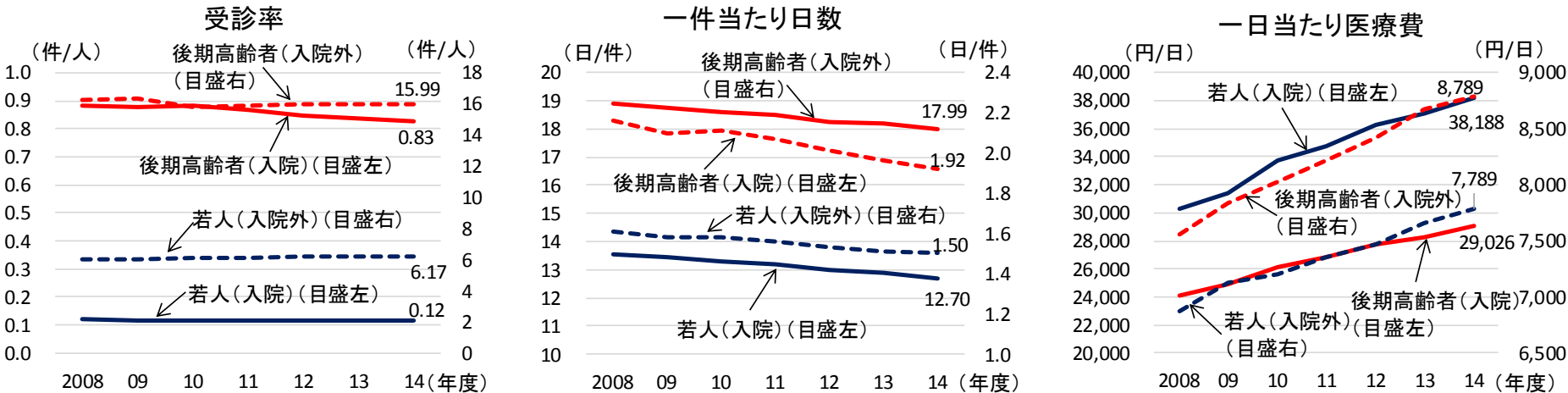
(備考) 経済・財政一体改革推進委員会・社会保障WG(第8回)厚生労働省資料を編集。一人当たり医療費は、市町村国民健康保険+後期高齢者医療制度の年齢調整後の計数。

最近の医療費の動向②

- 医療では、一日当たり医療費の上昇（入院、入院外、調剤）が顕著。薬価制度の抜本的改革、技術の高度化に伴う高額医療費の在り方の検討、医療の標準化や費用対効果の検証が必要。

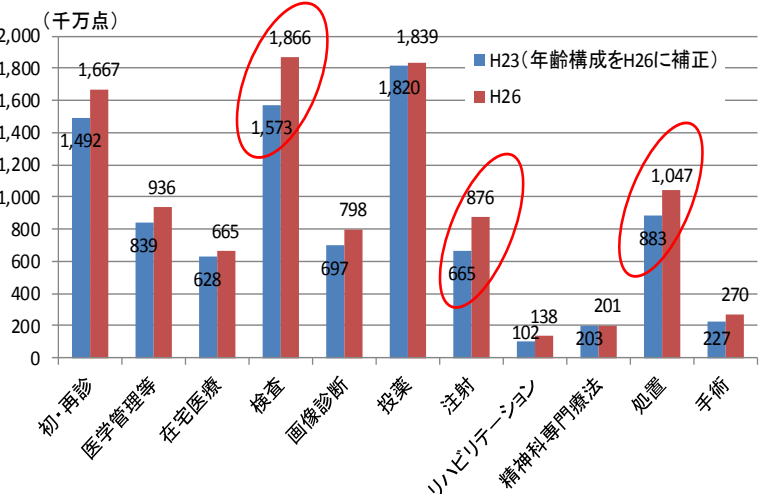
図表6 医療費の3要素

一件当たり日数



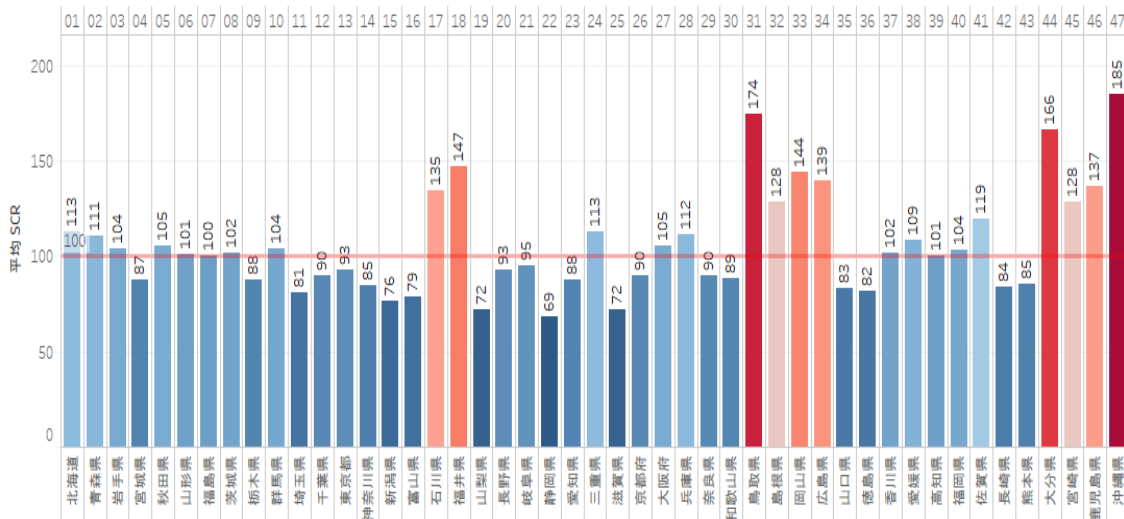
(備考)厚生労働省「医療保険に関する基礎資料」により作成。若人は被用者保険と国保の総称。70歳未満加入者の計数。

図表7 入院外・診療行為別点数の動向



(備考)経済・財政一体改革推進委員会・社会保障WG(第10回)厚生労働省資料を編集。

図表8 胃ろう造設術のレセプト出現比(SCR)の地域差

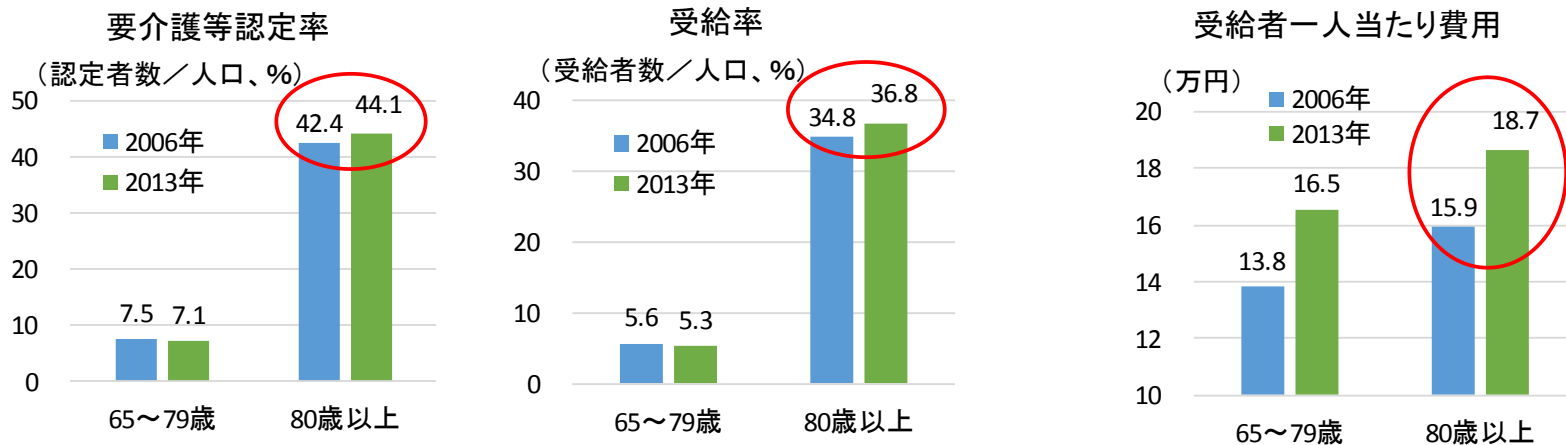


(備考)経済・財政一体改革推進委員会・評価・分析WG(第2回)藤森委員資料より抜粋。SCR: Standardized Claim Data Ratio. 性・年齢を調整したレセプトの出現率。全国平均は100。

最近の介護費の動向①

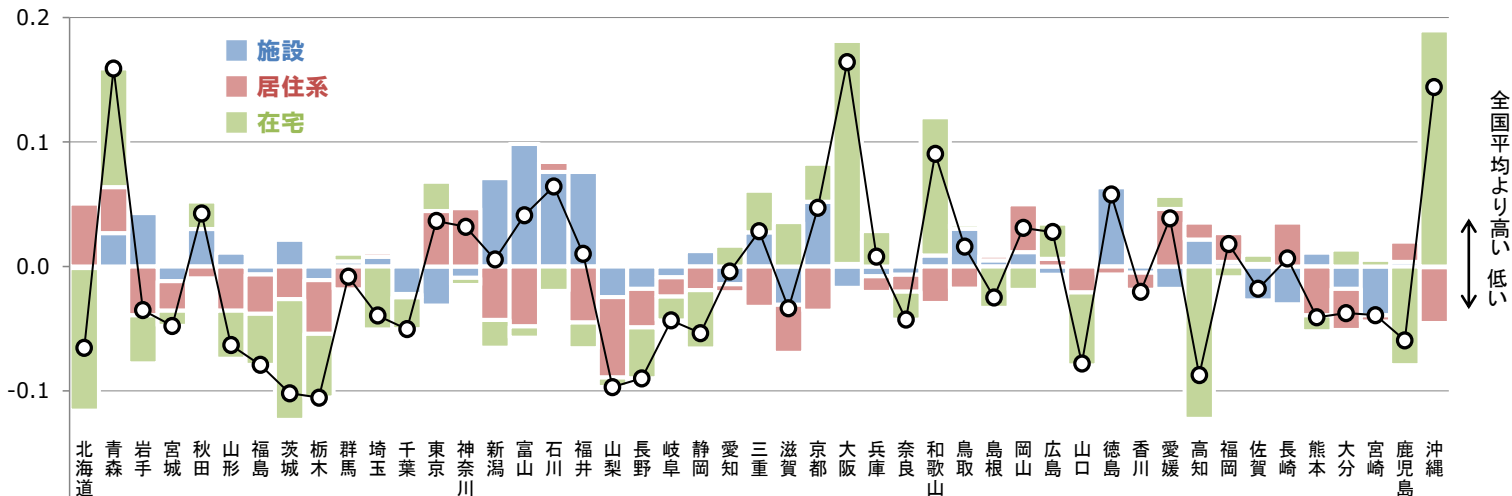
- 80歳以上の要介護等認定率・受給率・一人当たり費用共に増加。健康増進・予防の推進が重要。
- 一人当たり介護費に大きな地域差（在宅介護サービス等）が存在。優良事例を横展開すべき。

図表9 年齢階級別一人当たり介護費



(備考) 経済・財政一体改革推進委員会・社会保障WG(第8回)厚生労働省資料、総務省「人口推計」により作成。各年の10月審査分。

図表10 年齢調整後一人当たり介護費の地域差指数

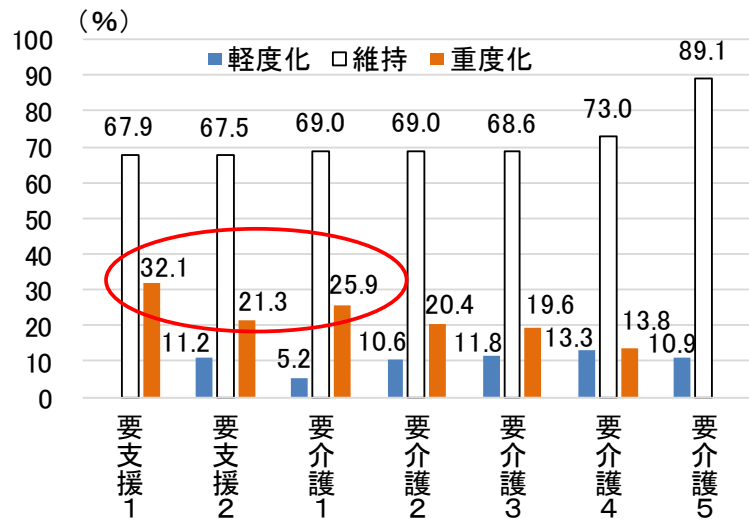


(備考) 経済・財政一体改革推進委員会・社会保障WG(第8回)厚生労働省資料より抜粋。

最近の介護費の動向②

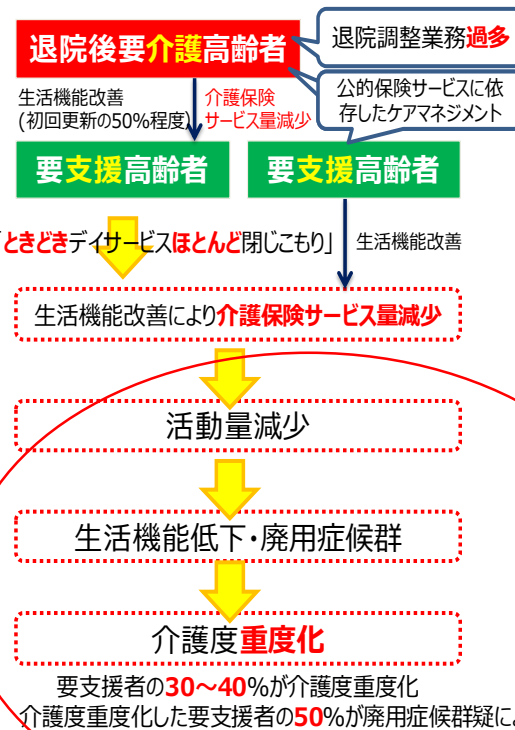
- 介護では、介護度が軽いほど、その後の介護度が重度化（軽度者の介護依存の可能性）。自立支援に向けたインセンティブ改革が重要。

図表11 要介護状態別に応じた年間継続受給者数の変化割合

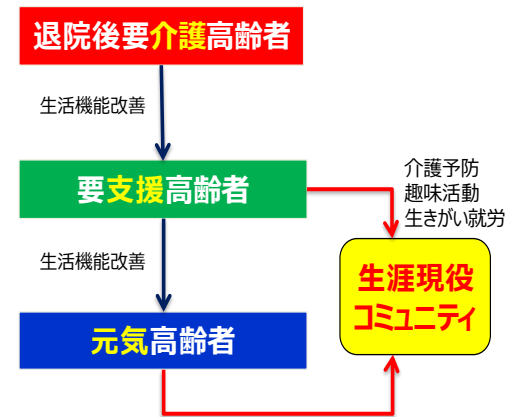


図表12 軽度者の介護度が重症化する背景と対応

【生活機能低下・廃用症候群の悪循環】



【生涯現役社会への復帰に向けた良循環の構築】



(備考)厚生労働省「平成27年度介護給付費等実態調査の概況」により作成。2015年5月審査分における受給者のうち、1年間(2015年4月～2016年3月)継続して介護予防サービス・介護サービスを受給した者(約379万人)の要介護(要支援)状態区分を2015年4月と2016年3月で比較。

(備考)「株式会社くまもと健康支援研究所」作成資料。